

市事業の優先度設定、「周辺部の廃れ」の心配消えず 地域事業費制度見直し問題で大詰めの議論

総務常任委員会が11日、開催されました。議題は地域事業費制度見直しについてです。

委員会では隣席の宮崎政国議員が「先にやらせてくれ」と先陣を切り、「地域事業費の枠があることによって財政の弾力性が保てないとのことであったが、(見直しの)大きな要因は合併前上越市が(配分枠を)大幅に超過することにある。市の現体制は直接責任はないにしても行政の継続性を考慮すれば、遺憾の気持ちを表明すべきだ」「広報しようえつに地域協議会と市長の意見交換会の記事が載っていた。『寛容のテーブルで将来を見据えて議論していただきたい』とあったが、(遺憾の気持ちの表明がな



浦川原公民館にて撮影

14日の市と地域協議会の意見交換会では、「地域事業費制度がなくなると(旧14市町村の)均衡が崩れる」「土地開発公社問題で市は後手に回っている」などの声が上がっていました。

く)上から目線のように感じる」などと厳しく追及しました。

これに対して竹田総合政策部長は、「意見交換会後10人ほどの地域協議会委員と話をしたが、上から目線だという声は聞いていない。行政としての責めを負うべきというものは理解できるが、黙っているわけにはいかない。説明責任を果たす必要がある、次につなぐまちづくりをしていきたい」とのべるにとどまりました。

私は質問の二番手。「地域事業費制度見直しは、合併時の14市町村間の約束事という重い問題だ。市長は自治基本条例に沿って市民の声を幅広く聴くべきだ。どうなっているか」と質問しました。

竹田総合政策部長は、「議会も地域協議会も公開しており、情報もすべて市民に出している。市長自身もキャッチボールトークで、昨年の早い段階から、地域のみなさんと意見交換している」とのべました。しかし、キャッチボールトークは、市政のいろいろな課題について意見交換する場であって、地域事業費制度そのものに限定して時間をかけて議論する場とは違うものです。直江津図書館問題の時に木浦前市長が、この問題だけで何回も市民と意見交換したことがありましたが、いまの市政にはこうした姿勢が求められているのではないのでしょうか。

地域事業費制度の見直し方針に伴い、事業の優先度の設定のあり方が問題となっています。私は、「全市的な優先度の設定に関して多くの地域協議会から周辺部が取り残されないような仕組みづくりを求められている。検討案ではどう担保されているか」とたずねました。

シリーズ 上越市内の橋

第71回 荒井橋



「荒井橋」と書いて「あらいばし」と読みます。飯田川にかかった橋で、市道川西北部線にありま

す。牧区落田と荒井をつなぎます。上流にも下流にも堰があつて、水の落ちる音がよく聞こえます。牧区総合事務所も見える位置にあります。橋の欄干は太陽熱で焼け、触ることができませんでした。

橋の長さは約32メートル。竣工は2000年(平成12年)3月です。

これに対して竹田総合政策部長は、「多くの区から、そういう心配をいただいている。だから、地域が元気になる提案事業や優先度について示している」と答弁しただけで、「こういう仕組みで配慮されているから心配ご無用です」といった具体的な答は返ってきませんでした。

22日に市議会全員協議会開催

地域事業費制度の見直しについては今後も総務常任委員会で調査をしていくことを確認しましたが、市長は地域事業費制度に関して全員協議会の開催を議長に要請、22日に開催されることになりました。

どういった展開になるか現時点では予想できませんが、もし合併前上越市に配分された枠を守ろうとしなかった行政責任をあいまいにしたままで、しかも、中郷、三和の地域協議会が制度の堅持を主張しているなかで、地域事業費制度見直しを決断するとしたら問題です。

梅雨が明けて、真夏の太陽がキラキラと輝いている日でした。市内の山間部に住むMさん宅を久しぶりに訪問しました。Mさんは、家の近くにある畑で仕事の最中でした。声をかけると、びつくりした様子で手を休め、家に戻ってくれました。

Mさんは絵が得意な人で、玄関先には、以前、Mさん宅で飼っていた柴犬の絵が置いてありました。いまにも絵から飛び出てきそうで、真に迫るものがあります。また、その近くには大きなしだれ桜の木の写真が二枚飾られていました。

「きょうはバカ暑いね。体重があるから、汗が出ちゃって……」と言うと、Mさんは、私の顔を覗き込むようにして「ウーロン茶がいいですか、それとも冷たいコーヒーがいい？」と訊きます。私はしばらく飲んでいない冷たいコーヒーをお願いしました。

Mさんは、明るい性格の人で、とても話好きです。この日も、お盆に載せて台所から冷えた手ふきとコーヒーを持ってくると、冷たいコーヒーをどうつくったかなどについて楽しそうに語ってくれました。

話はずんで一〇分ほど経過した頃でした。Mさんは思いついたように、「ねえ、ちよつと写真見てくれる」と言います。さて、何の写真だろうと考えているうちに、Mさんは家の中から大きな一枚の写真を持って出てきました。そうですね、縦四〇センチ、横三〇センチくらいはあったでしょう。

写真は何とMさん夫婦の写真でした。ピンクのドレスを着て、左肩に淡いピンクのコーサージュをつけたMさん。そして隣には、薄い水色のスーツを着たお連れ合いが笑顔で寄り添い立っています。撮影時にそばにいれば、拍手を送りたくなるような見事な写真です。Mさんが見てほしいと言いたくなる気持ちがよくわかりました。

誕生月こそ違いますが、二人は昨年、満六〇歳に到達しました。写真はそれを記念して撮ったものです。

撮影したのは今年の五月頃らしい。自分の家の中に真っ白のスクリーンを用意、それをバックに最高のおしゃれをして、自動シャッターで撮ったということでした。Mさんのピンクのドレスは、三十数年前の結婚式の際、お色直しで着たもののだといいますが、六〇歳の彼女が着てもまったく違和感がありませんでした。

「お色直しをした時のドレス」という話を聞いて、青年団の仲間たちが地元集落センターで開催した二人の「結婚を祝う会」のことを思い出しました。祝う会はとても盛り上がり、若い二人の出演を励ます会になったのですが、二人の歩みがスライドで上映された時、一つだけ気になったことがありました。それは海でダイビングをする新郎の趣味でした。当時、世間知らずだったんですね、私は。ダイビングは大金持ちの遊びだと思っていたのです。正直言って、そんな遊びをしていいのだろうか、心配しました。

言うまでもなく心配ご無用でした。お連れ合いは人一倍やさしく、誠実な人で、夫婦が抱えるどんな困難も一緒に解決する人だったので。

写真の説明を続けるMさんに、「ねえ、お父さんの左手ってどこにあるの？」とたずねました。すると、Mさんいわく、「私の背中。ほんとうは肩を抱いてくれたんだけど、そうすると彼の肩の位置がおかしくなるんだって……」。幸せいっぱい還暦記念写真、ああ、うらやましい。

地域対抗種目で燃えた、燃えた

第7回吉川区体育祭が10日、吉川小学校グラウンドで行われました。参加者は約700人。競技中は、雲に覆われ、時々いい風が吹きまし



た。輪投げ徒競争、綱引き、大玉・小玉おくり、障害物リレーなどの種目で熱戦が繰り広げられました。

私はテント席で観戦させてもらいました。小学生による輪投げ徒競争では、スタートしてすぐに足を滑らして転倒した児童がいました。しかし、この児童はその後、起き上って力走、輪投げでは一番に成功させ、トップでゴールしました。テント前にバツタが跳んできましたが、そのバツタを2人の子どもが追いかけていました。テント席の大人たちはその様子に注目、ひとりの子どもがバツタを捕まえるとホッとしました。転んで足をすりむいた子どももいました。足を

出し、保健師さんから消毒してもらった時の子どもの顔を見つめました。痛そうな顔をするのではないかと思ったら、へっちゃらでした。

いつもと同じく、地域対抗種目は応援にも力が入ります。大玉・小玉おくりで注目は泉谷地域づくりチームです。チームワークの良さとスピードは他チームを寄せ付けず、連勝記録を6に伸ばしました。障害物リレーは最後の種目、みんな燃えましたね。

上越市の道路整備状況 (2011年3月31日現在)

	路線数	改良率(%)	舗装率(%)
安塚区	257	48.4	75.9
浦川原区	170	60.0	60.9
大島区	126	48.6	67.0
牧区	112	56.6	81.2
柿崎区	182	82.4	87.8
大湯区	519	70.7	61.9
頸城区	365	85.5	73.8
吉川区	181	58.2	78.9
中郷区	187	56.9	62.5
板倉区	245	78.2	72.9
清里区	235	57.6	74.0
三和区	285	85.6	87.3
名立区	159	43.3	81.5
合併前上越市	2771	76.4	91.6
合計	5794	69.3	80.3